

訓練計画説明に係る面談（5週間前）時の確認事項

全般

○訓練計画＜資料＞

- ・中期計画上の今年度訓練の位置付け
- ・今年度訓練の目的・達成目標
- ・主な検証項目
- ・実施・評価体制
- ・訓練の項目・内容（防災業務計画の記載との整合）
- ⇒別添1-1（福島第一原子力発電所緊急時演習計画書）  
別添1-2（福島第二原子力発電所緊急時演習計画書）参照
- ・訓練シナリオ
  - －プラント運転状態，事象想定，スキップの有無等
  - －現状のプラント状態を踏まえた訓練の実施方針
- ⇒別紙1（福島第一及び福島第二訓練シナリオ）参照
- ・その他
  - －E R S S / S P D S の使用
    - ⇒福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所ともにE R S S 訓練モード / S P D S 訓練モード使用
  - －C O P 様式
    - ⇒別紙2-1（福島第一原子力発電所COP様式一覧）参照
    - 別紙2-2（福島第一原子力発電所COP様式一覧）参照
  - －即応C，緊対所レイアウト図
    - ⇒別紙3（即応センターレイアウト図）
      - 別紙5-1（福島第一緊急時対策所レイアウト図）参照
      - 別紙5-2（福島第二緊急時対策所レイアウト図）参照
  - －E R C 対応ブース配席図，役割分担
    - ⇒別紙4（即応センター官庁連絡班レイアウト図）参照
  - －E R C 書架内の資料整備状況（資料一覧）
    - ⇒別紙6-1（福島第一原子力発電所ERC配備資料リスト）参照
    - 別紙6-2（福島第二原子力発電所ERC配備資料リスト）参照

- 評価指標のうち、主に [ P ] , [ D ] に関する内容<資料>
- 事業者と E R C の訓練コントロール間の調整

#### 指標 1 : 情報共有のための情報フロー

- 発電所、本店（即応センター）、E R C の 3 拠点間の情報フロー
  - ・情報フローとは、5つの情報
    - －① E A L に関する情報
    - －指標 2 に示す情報（②事故・プラントの状況、③進展予測と事故収束対応戦略、④戦略の進捗状況）
    - －⑤ E R C プラント班からの質問への回答について、いつ、どこで、だれが、なにを、どんな目的で、どのような観点からみた、情報伝達の一連の流れをいう。
- 情報フローにおいて、前回の訓練における課題及び当該課題を踏まえた改善点を明示すること
  - ・情報フローの確認に際しては、前回訓練での情報共有における課題に対する改善策を反映したものであるかを確認する。
- ⇒発生が事前に予測できるSE、GEについて、発生予想時刻前に10条確認会議、15条認定会議にて説明する内容を副本部長へインプットする流れを情報フローへ落とし込んだ。
- ⇒（福島第一原子力発電所）
  - 通報文作成に必要な情報収集の仕組み、通報文チェック方法について新たに情報フローへ落とし込んだ。
  - 別紙 7-1（福島第一原子力発電所情報フロー）参照。
  - 別紙 7-2（福島第二原子力発電所情報フロー）参照。

#### 指標 2 : E R C プラント班との情報共有

- E R C 対応ブース発話者の育成・多重化の考え方の説明
- 訓練当日、E R C 対応ブース発話者をくじ引き等により選定することの可否（否の場合は、その理由）
- ⇒
  - メインスピーカ、サブスピーカ、ERCリエゾンメイン担当者は、2018年度および2019年度の訓練でそれぞれの役割を担当しなかった者が行うこととし熟練者の増員を図る。また、昨年度までと同様、ダミーERC役を立て、本番同様にTV会議を接続して訓練を実施。なお、昨年度までダミーERC役を行っていた社員が退職となったが、個別契約を結び引き続き対応をお願いするとともに、新たなダミーERC役を育成していく。
  - 福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所ともに対応するスピーカについては、熟練者拡大の観点からこれまでスピーカ役を担当したことの無い者が実施するため、力量向上を目的としてくじ引きは行わない。

指標3：情報共有のためのツール等の活用

(3-1 プラント情報表示システムの使用)

○使用するプラント情報表示システムの説明（実発災時とシステムの差異も説明）

⇒使用するプラント情報表示システムは、以下の実発災時と同じシステムを使用。

発電所－本社間：SPDS

本社－ERC間：ERSS

なお、SPDS、ERSSともに訓練モードで動作させ、事前に作成したデータを流して訓練を実施する。

(3-2 リエゾンの活動)

○事業者が定めるリエゾンの役割に関する説明

⇒

◆リエゾンの役割

・即応センターの補助（即応センターメインスピーカーの補助）

・ERC内でのQA対応

・COP類の定期的な共有

◆定期的に共有するCOP類

・設備状況シート

・プラント系統概要図

※重大な局面シート、滞留水管理シート、連絡メモ、目標設定会議COPは定期的ではないが必要に応じて配付する。

(3-3 COPの活用)

○COPの作成・更新のタイミング、頻度に関する説明

⇒プラント系統概要COP、設備状況シート

作成タイミング：福島第一 免震棟到着後の20分後

福島第二 要員参集後（事象発生より約10分後）

更新頻度：福島第一、第二 正時を起点に15分毎

⇒重大な局面シート（使用済燃料プール）

作成タイミング：福島第一 免震棟到着後の15分後

福島第二 水位計No.8露出後

更新頻度：福島第一 情報入手の都度または15分毎

福島第二 連続更新

⇒滞留水管理シート

作成タイミング：福島第一 免震棟到着後の40分後

**福島第二 水位計No.8露出後**

**更新頻度：福島第一 滞留水増加量が変化する都度**

**福島第二 SFP水位低下確認の都度**

**⇒発電所目標設定会議COP**

**作成タイミング：福島第一 免震棟到着後の15分後**

**福島第二 要員参集後（事象発生より約10分後）**

**更新頻度：福島第一 情報入手の都度および発電所目標設定会議毎**

**福島第二 情報変更の都度および15分毎**

**⇒本社目標設定会議COP**

**作成タイミング：本社目標設定会議後**

**更新頻度：発電所目標設定会議終了後**

(3-4 E R C 備付け資料の活用)

**⇒現在、資料の一部を更新中。**

**指標 4：確実な通報・連絡の実施**

(①通報文の正確性)

○通報文FAX送信前の通報文チェック体制，通報文に誤記等があった際の対応

**⇒通報文に誤記等があった場合は，間違えた通報文に訂正箇所を明確にして再送付する。**

**なお，訂正報は新規番号にて送付する。**

○発生したEALが非該当となった場合の対応

**⇒EALを取り下げる場合は，EALの条件を下回ったことを25条報告（特定事象に至っていない場合は，AL経過連絡）にて通報する。**

○通報に使用する通信機器の代替手段

**⇒原子力規制庁殿への通報文のFAX方法は，優先順位が高い順から以下の通り。**

**【福島第一原子力発電所，福島第二原子力発電所】**

- ①外線FAX（一般回線）**
- ②統合原子力防災NW（地上系）**
- ③統合原子力防災NW（衛星系）**

(②EAL判断根拠の説明)

**⇒EAL判断シートを活用する。**

(③10条確認会議等の対応)

○10条確認会議，15条認定会議の事業者側対応予定者の職位・氏名

**⇒福島第一原子力発電所：即応センターの副本部長**

個人情報のためマスクング

福島第二原子力発電所：即応センターの副本部長

個人情報のためマスクング

(④第25条報告)

○25条報告の発出タイミングの考え方

【福島第一原子力発電所】

⇒緊急時対策所での活動開始後30分毎を目安に適宜発電所情報及びプラント情報を通報予定とし、EAL通報が複数発生する繁忙時であっても60分／件以内を目標とする。

【福島第二原子力発電所】

⇒10条発出後、30分／件を目途とし発電所情報及びプラント情報を発出予定とし、EAL通報が複数発生する繁忙時であっても60分／件以内を目標とする。

○訓練事務局側が想定する、今回訓練シナリオ上の25条報告のタイミング、回数（訓練シナリオ中にも記載すること）

⇒別紙8-1（福島第一原子力発電所通報文整理表）参照

別紙8-2（福島第二原子力発電所通報文整理表）参照

指標5：前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定

○訓練実施計画が、前回訓練の訓練結果を踏まえ、問題・課題に対する改善策が有効に機能するものであるか検証できる計画（訓練実施項目、訓練シナリオ等）となっていることの説明

○訓練時における当該改善策の有効性を評価・確認の方法（例えば、訓練評価者が使用する評価チェックリスト（改善策の有効性を検証するための評価項目、評価基準などが明確になっているもの）が作成されていることなど）の説明

○課題の検証につき、社内自主訓練・要素訓練、他発電所の訓練で対応している場合は、その検証結果の説明

○今年度の訓練で課題検証を行わない場合にあっては、その理由と検証時期の説明、中期計画等への反映状況の説明。また、今年度の訓練で課題検証を行わずとも緊急時対応に直ちに問題は無いことの説明。

⇒別添1-1（福島第一原子力発電所緊急時演習計画書）参照

別添1-2（福島第二原子力発電所緊急時演習計画書）参照

指標6：シナリオの多様化・難度

訓練シナリオ情報のためマスクング

訓練シナリオ情報のためマスクング

指標 7 : 現場実働訓練の実施

訓練シナリオ情報のためマスクング

## 訓練シナリオ情報のためマスクング

○事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携に係る説明

## 訓練シナリオ情報のためマスクング

○他原子力事業者評価者の受け入れ予定

### 【福島第一原子力発電所】

⇒現場実動訓練において、事故シナリオに基づき、緊急時対策所と連携した実動訓練を行い、他原子力事業者から評価をいただく予定。なお、新型コロナウイルス感染防止対策として、訓練の様子をビデオ撮影し、訓練終了後に評価者に対し、ビデオを送付し、評価いただくことも考慮する。

### 【福島第二原子力発電所】

⇒現場実動訓練において、事故シナリオに基づき緊急時対策所と連携した実動訓練を行い、他原子力事業者から評価をいただく予定。なお、新型コロナウイルス感染防止対策として、訓練の様子をビデオ撮影し、訓練終了後に評価者に対し、ビデオを送付し、評価いただくことも考慮する。

## 指標 8 : 広報活動

○評価要素①～⑤それぞれについて、対応、参加等の予定についての説明

- ① E R C 広報班と連動したプレス対応 : 実施
- ② 記者等の社外プレーヤの参加 : 模擬記者兼評価者として広報コンサルティング会社   
調整中のためマスクング
- ③ 他原子力事業者広報担当等の社外プレーヤの参加 : 調整中
- ④ 模擬記者会見の実施 : 実施 ( 模擬記者は ② , ③ 社外プレーヤと社内プレーヤで実施 )
- ⑤ 情報発信ツールを使った外部への情報発信 : 実施 ( 模擬 H P , 模擬 S N S )

## 指標9：後方支援活動

○評価要素①～③それぞれについて、具体的活動予定（特に、実働で実施する範囲を明確にすること）についての説明

○一部を要素訓練で実動し、残りを総合訓練で実動するなど、複数の訓練を組み合わせて一連の後方支援活動の訓練を実施する場合は、その説明

⇒①事業者間の支援活動：事業所間協定に基づく支援要請（実連絡）を調整中のためマスクング依頼予定。浜通り物流センターに電力支援本部の立上げ訓練を実施。

②後方支援拠点との連動：後方支援拠点を浜通り物流センターに立ち上げ、公衆回線が使用できない場合を想定した衛星携帯電話による通信連絡訓練、スクリーニングエリアの設営および測定訓練等を実施予定。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響によっては、訓練内容を縮小する。

③原子力緊急事態支援組織との連動：本社から支援要請（実連絡）を美浜原子力緊急事態支援センターに実施。

別の日程で、発電所では遠隔操作資機材（ロボット）による操作訓練を実施予定。

## 指標10：訓練への視察など

(①他原子力事業者への視察)

○他事業者への視察実績，視察計画

【本社】

昨年度、指標2「ERCプラント班との情報共有」において高評価であった女川、東通、浜岡、川内へ視察予定。

【福島第一原子力発電所】

今後の実施される他事業者（発電所側）の防災訓練を視察予定。

【福島第二原子力発電所】

1～3月実施の防災訓練を（緊急時対策所）視察予定。

(②自社訓練の視察受入れ)

○自社訓練の視察受け入れ計画（即応C，緊対所それぞれの視察受入れ可能人数，募集締め切り日，募集担当者の指名・連絡先）

⇒即応C5名（事業者4名，核燃料施設等1名）

福島第一緊対所5名（事業者4名，核燃料施設等1名）

福島第二緊対所5名（事業者4名，核燃料施設等1名）



※切：即応C，福島第一，福島第二

8月25日（火）

募集担当者：原子力運営管理部 防災安全グループ

個人情報のためマスクング

なお、新型コロナウイルス感染防止対策として、発電所においては緊急時対策室への入室は不可とすることも検討中であり、その場合、訓練の様子を映像で確認いただくことを考慮する。また、本社においても、緊急時対策室への入室人数、時間を制限し訓練の様子を映像で確認いただくことを考慮する。

(③ピアレビュー等の受入れ)

○ピアレビュー等の受入れ計画（受入れ者の属性、レビュー内容等）

【本社】

訓練当日に即応Cの活動を調整中のためマスクングにレビューして頂くことで今後調整。なお、新型コロナウイルス感染防止対策として、訓練の様子をビデオ撮影し、訓練終了後に評価者に対し、ビデオを送付し、評価いただくことも考慮する。

【福島第二発電所】

訓練当日に発電所緊急時対策本部の活動を調整中のためマスクングにレビューして頂くことで今後調整。なお、新型コロナウイルス感染防止対策として、訓練の様子をビデオ撮影し、訓練終了後に評価者に対し、ビデオを送付し、評価いただくことも考慮する。

(④他原子力事業者の現場実働訓練への視察)

○視察又は評価者としての参加の実績、予定の説明

⇒各事業者の実施予定を確認し調整する。

指標11：訓練結果の自己評価・分析

—

備考：訓練参加率

○発電所参加予定人数（うち、コントローラ人数）

【福島第一原子力発電所】

⇒130名（30名）

【福島第二原子力発電所】

⇒150名（25名）

○即応センター参加予定人数（うち、コントローラ人数）

⇒**200名（20名）**

○リエゾン予定人数（うち、コントローラ人数）

⇒ **10名（1名）**

○評価者予定人数

⇒ **20名**

**備考：中期計画の見直し状況**

○見直し状況，見直し内容，今年度訓練実施計画の位置づけの説明

○見直し後の中期計画を提出すること

○前回訓練の訓練報告書提出以降から次年度訓練まで対応実績・スケジュール（作業フローなど）について，以下のP D C Aの観点で概要を示すこと

【観点】前回訓練の訓練報告書提出から今回訓練までと今回の訓練を踏まえた [ C ] 及び

[ A ] ，中期計画及び原子力防災業務計画への反映 [ P ] の時期

[ C ] 訓練報告書のとりまとめ時期

[ A ] 対策を講じる時期

－具体的な対策の検討，マニュアル等への反映，周知・教育/訓練など（昨年度度の訓練実施結果報告書に掲げた各課題についての対応内容，スケジュールがわかるように記載すること）

－原子力事業者防災業務計画への反映の検討事項・時期（定期見直し含む）

[ P ] 中期計画等の見直し事項・時期，次年度訓練計画立案時期

○前回訓練実施後の面談時に説明したPDCA計画の確認

⇒**別紙9（中長期計画資料）参照。**

**備考：シナリオ非提示型訓練の実施状況**

○開示する範囲，程度（一部開示の場合，誰に／何を開示するか具体的に記載）及びその設定理由に係る説明

⇒**コントローラ以外はシナリオ非開示とする。**

◆事業者とE R Cの訓練コントローラ間の調整事項

○E R C広報班との連動の有無

⇒**連動有り。**

○T V会議接続先（即応C，O F C，緊対所）

⇒**統合原子力防災ネットワークのTV会議に，東電即応センター1を通常の接続として，東電即応センター2及び柏崎刈羽緊急時対策所を傍聴で接続して頂きたい。**

○リエゾンの人数（プラント・広報），入館時刻，訓練参加タイミング

⇒**リエゾン人数はERCプラント班対応10名，広報班対応2名，コントローラ1名を予定し，入館**

時間は12時30分頃、訓練参加タイミングは訓練開始後約15分後（13時15分）とする。

○訓練終了のタイミング、その後の振り返りの要否

⇒訓練の進捗に合わせ、事前にE R Cコントローラと調整を行い、即応センターコントローラより訓練終了の発話を行い、その後振り返りを実施する。

○E R S S仕様に係る当庁情報システム室との調整状況

⇒9月1日（火）で調整中

○事前通信確認実施の要否

⇒実施

○即応Cコントローラの所属、氏名、連絡先

個人情報のためマスキング

○E R C対応者の職位、氏名

個人情報のためマスキング

○訓練時、メールを利用したE R Cプラント班への資料提供の実施の有無

⇒予定なし

◆その他確認事項

→なし

以上